

# 代表質問を終えて

自民党県議団

民主県政県議団

緑友会

公明党

## 提出された議案

令和4年9月定例会では議案48件が提出され、いずれも原案のとおり可決、認定、原案可決及び認定されました。

### ○議員提出議案 2件

- ・福岡県議会議員の定数並びに選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の数に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ・環境と人と動物のより良い関係づくり等福岡県におけるワンヘルスの実践促進に関する条例の制定について

### ○予算議案 3件

- ・令和4年度福岡県一般会計補正予算(第3号)
- ・令和4年度福岡県一般会計補正予算(第4号)
- ・令和4年度福岡県県営埠頭施設整備運営事業特別会計補正予算(第1号)

### ○条例議案 5件

- ・福岡県職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ・福岡県民生委員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について
- ・水質汚濁防止法第3条第3項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
- ・福岡県農林水産関係手数料条例の一部を改正する条例の制定について
- ・福岡県都市公園条例の一部を改正する条例の制定について

### ○工事請負契約の締結に関する議案 12件

### ○経費負担に関する議案 6件

- ・農業農村環境整備事業の経費の負担について
- ・県営土地改良事業の経費の負担について
- ・県営林道開設事業の経費の負担について
- ・港湾関係事業の経費の負担について
- ・街路関係事業の経費の負担について
- ・流域下水道事業の経費の負担について

### ○決算関係議案 20件

## 可決された意見書、採択された請願

### 可決された意見書

- 教職員定数の改善及び義務教育費国庫負担制度の充実を求める意見書
- プラスチックに係る資源循環等の総合的な推進を求める意見書
- 「緊急時の薬事承認」の在り方等について検討を求める意見書
- 国民の祝日「海の日」の7月20日への固定化を求める意見書

### 採択された請願

- 私立幼稚園に対する助成制度の拡充強化に関する請願

冒頭、電気代や物価高騰等に対する支援策について、服部誠太郎知事は「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援交付金」を活用しながら、県民、事業者により、機動的な対応を図ると答弁しました。新型コロナウイルス感染者全数届け出の見直しに伴う施策については、届け出の対象外となる方が安心して療養生活を過ごせるよう、適切な医療や生活支援を受けることができる「健康フォローアップセンター」を整備するとの回答がありました。

食料の安全保障強化の必要性について質したところ、過度な輸入依存からの脱却に向けて、配合飼料原料の自給率向上に向けた生産・加工に必要な機械導入支援などの予算計上、飼料価格高騰に対して畜産農家の経営継続を図るため、配合飼料や乾牧草の購入に対する助成を新たに実施するとの答弁を得ました。

物価高における中小企業への支援について、「事業継続の支援」「明日につながる支援」の2つを柱に据えて、県制度融資に物価高騰特別枠を創設し、デジタル技術を活用した生産性向上に必要な設備導入に対する支援の拡充など、厳しい経営状況にある県内中小企業の事業継続とさらなる成長発展に向けて、しっかりと取り組むとの答えを得ました。

教育長からは、小中学校における教師不足に関して、県独自の取り組みに加え他県の取り組みといったさまざまな方策を研究するなど全力を挙げて、地域間格差を含め教師不足の解消に努めるとの回答を得ました。

その他、本県管理河川の治水対策、ESG債の発行、マイナンバーカードの普及促進等について知事に質し、前向きな答弁を頂きました。

服部誠太郎知事は、新型コロナウイルス感染者の全数届け出の見直しが開始された後、感染された方々へ新設する「健康フォローアップセンター」を案内し、健康面と生活面の支援を行うとの発言をされました。最低賃金については早期に1000円の達成を目指して国に求めていくこと、男性の育児休業取得促進については、フォローアップセミナーを通じて積極的に発信すると表明されました。

手話言語に関し、少人数研修を通じて手話通訳者の育成を行うと回答を得ました。

変革期を迎えた自動車産業に対応するため、中小企業の脱炭素促進、電動化部品製造への参入支援や水素・風力産業への参入支援を行うこと、さらに水素ステーションの整備促進に努めるとされました。

また、農林水産物の有害鳥類対策を強化するため、市町村への特別交付税措置の周知、狩猟者への指導強化を進めるとされ、久留米市内の浸水対策については、計画的な対策に取り組むこと、その情報発信も強化すること、県の河川維持管理予算の確保にも取り組むとの発言を得ました。

教育長からは、教育現場で手話技術を持つ教員の育成支援を行うこと、制服・水着の選択制は県立学校のほとんどで実施されており、今後も不断の見直しを行うとの発言がありました。また、教員の未配置の解消のため、精度の高い推計に基づく採用を行ったが、志願者の減少、合格者の辞退によって目標を達成できず、今後は、大学や企業との連携を深め、質の高い教員の確保を進めるとされました。

まず、物価高騰の本県における現状について質したうえで、未来に向けた成長、発展の取り組みについて服部誠太郎知事から次のとおり回答を得ました。

将来の産業や経済発展のための種をまき、芽を育てていくことで、危機に強い財政基盤をつくるのが重要である。

中小企業を支えるため、デジタル技術を活用した生産性の向上や新技術・新製品開発等を支援する。本県の経済構造を社会経済情勢の変化に対して、より強靱で持続可能なものに変革していく。

都市近郊の農業者への支援については、限られた農地を最大限活用して収益を上げるため、消費者ニーズに即した作物を少量多品目で生産し、通年での出荷を可能とする経営を確立する必要があることから、市場調査を踏まえた最適な品目の組み合わせを提案し、直売所を対象とした年間の出荷計画の作成を支援するとともに、品目ごとに肥培管理などの技術指導を行っているとの回答を得ました。

また、旅行需要の喚起策について質しました。県では、旅行需要を喚起するため、昨年7月から「福岡の避暑の旅」観光キャンペーンを実施している。感染防止対策をしっかりととりながら、さらに広域的な観光キャンペーンを切れ目なく実施していきたいと考えているとの回答を得ました。

その他にも、離島における漁業資源づくりと出荷対策、マイナンバーカードの利便性向上、パラアスリートの育成、スクールソーシャルワーカーの重要性、警察問題等を質しました。

今回の代表質問では、克服していかなければならない直面する主要課題に対し、服部誠太郎知事ははじめ、教育長、警察本部長へ質すとともに、多様性を大切に福岡県構築のため、10項目にわたり質問をいたしました。

まず、現状乗り越えなければならぬ最重要課題の一つである、新型コロナウイルス感染症対策では、ワクチン接種加速、経口治療薬早期実現へ向けた動きの加速化について質しました。また、誰でも、どこでも、効率性、利便性、公平性、透明性、安全性などの恩恵を享受できる、重要な革新的取り組みの一つであるDXを、全庁挙げて推進することの重要性を指摘しました。さらに、北九州市の旦過地区における二度にわたる大火災に関し、行政としての教訓をいかに活かすよう質しました。

本年度から保険適用が本格的に始まった不妊治療について、現状の社会的認識の低さを指摘、すべての人が仕事と治療の両立ができる環境整備を進めるよう質し、知事からも推進へ向けた力強い答弁をいただきました。

本県の障がい者就労事業では障がいがあるながらも手帳を持たない方やいわゆるグレーゾーンといわれる境界線にある方に対する支援が十分でないことを指摘し、知事からは支援強化への答弁がありました。

福祉避難所の受け入れ可能人数は十分とはいえず、直接避難に向けた体制整備と合わせ、その必要性の認識が示されました。他にも男子トイレへのサニタリーボックス設置、障がい者手帳アプリの活用推進、中小企業への支援強化、ニセ電話詐欺対策の強化を取り上げ、知事や警察本部長の前向きな答弁がありました。